

# 平成 27 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	中等 1	学校名	並木中等教育学校				課程	全日制		学校長名	中庭 陽子					
副校長名	谷島 重穂		教頭名			杉田 慶也			主査兼事務長名			大塚 裕之				
教職員数	教諭	63	養護教諭	2	常勤講師	4	非常勤講師	3	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	1	計	79
生徒数	学科	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	普通科		80	80	80	80	80	80	79	78	81	80	75	76	475	474

## 2 目指す学校像

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 様々な体験を通して広く人間教育を行う学校</li> <li>2 つくば研究学園都市の一角に位置するという地域性を生かし、大学や研究機関と連携して科学教育を行う学校</li> <li>3 外国からの研究者・留学生との交流や海外語学研修などを通して、国際教育・コミュニケーション能力育成教育を行う学校</li> </ol>
--

## 3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<p>創意工夫ある授業の実践を図るために、昨年度は、延べ430回の「ミニ授業研究」を繰り返し、授業のレベルアップを図ってきた。</p> <p>また、自主的な学習態度を育成と、効率的・効果的な学習習慣の形成に努めてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6年間を見通した体系的なシラバス作成</li> <li>・ アクティブラーニング, ICT活用</li> <li>・ 観点別学習評価, 指導と評価の一体化</li> <li>・ 自学自習できる環境の整備</li> </ul>
進路指導	<p>進路情報の提供や面談を重視し、進路意識の高揚を図っている。その結果、3クラス卒業生のところ、国公立大学と国</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6年間を見通したキャリア教育の推進</li> <li>・ 生徒の早期の進路目標の設定及び援助指導</li> </ul>

別紙様式 1 (中等)

	立大学校等の合格者数が 88 名 (現役 68 名) であり, 私立大学の合格者数は延べ 277 名 (72 名) に上った。	の充実
生徒指導	年間 110 回のあいさつ運動, 毎日の交通安全指導を行うことにより, 基本的生活習慣 (自立的な生活習慣, 社会的マナー) の育成や交通安全意識の啓発及び徹底を図ってきた。 また, 一人一人の悩みや不安に応じる教育相談体制の確立と定期相談の実施に努めてきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主体的・自律的な生活態度の育成</li> <li>・ 日常生活の諸問題を生徒が自ら解決する取り組みの充実</li> <li>・ 子供の声, 親の声を真剣に受け止め, 連携協力して問題を解決する体制づくり</li> </ul>
特別活動	生徒会活動, 学校行事に積極的に参加する態度を育成している。 また, 部活動 (加入率: 前期課程 94.2%, 後期課程 75.7%) の活動時間 (平日 2 時間) の確保に努めてきた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒主体の活動推進による, よりよい人間関係を築く力, 社会に参画する態度や自治的能力の育成</li> <li>・ 6 年間の学校行事の体系化</li> <li>・ 学校教育の一環として教育課程との連携を図る部活動運営の工夫改善</li> </ul>

4 中期的目標 (平成 26 年度から 6 年以内)

第 2 ステージに入った本校は, 中等教育学校としての可能性をさらに追求する。第 1 ステージのテーマ「教育理念から実践へ」から, 第 2 ステージは「より高い教育水準・より豊かな教育活動をめざして」とする。

<目 標>

- 1 建学の精神・教育理念をもとに, 生徒に科学的素養や国際感覚, 高い学力を身につけさせるとともに, 「人間力」を備えた次世代を担うリーダーとして育成する。
- 2 スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 校として, 本校の教育の柱の一つの科学教育を推進しつつ, グローバル化社会が求める新しい教育を追求し実践し, 全国に誇れる県立中等教育学校を目指す。
- 3 キャリア教育の視点のもと, 全ての教育活動を展開し, 進学指導を一層充実させ, 高い志の実現, 海外の大学も視野に入れた生徒の針路実現を目指す。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 意欲ある学校風土の醸成	○生徒主体の教育活動を展開する。 ・授業研究の推進…アクティブラーニングの導入, ICT活用 ・生徒会の活性化…生徒によるマナーアップ, 生徒による集会, 常置委員会の活性化 ・縦割り活動のスタート…学校行事や清掃活動において展開
2 志高く, 進路実現に取り組む生徒の育成	○並木中等らしいキャリア教育を展開する。 ○生徒が自らの可能性に挑戦する進学指導を実践する。
3 SSH事業の推進	○中高一貫教育を活かした理数教育のカリキュラム開発と教材・指導法の実践的研究を加速化する。 ○科学研究部の指導法を充実させる。 ・科学研究コンテストの入賞者数の増加 ・科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア全国大会出場そして全国優勝チームの育成 ・各種科学オリンピックへの出場者の育成 ○自己組織化・自立した学習集団を育成する。
4 6年間を見通した校内体制の確立	○6年間の教育活動を体系化する。(各教科シラバス作成) ○「課題研究」指導体制の充実を図る。